

令和4年度 中城御殿跡地整備検討委員会（第2回） 議事要旨

日時：2023年3月17日（金）10:00～12:00

場所：沖縄県市町村自治会館 2階 大会議室

1. 上之御殿エリア・脇門石牆の設計について

- 将来的に文化財指定を目指す範囲について、具体的に確認したい。国にも文化財の保存と利活用という一見矛盾する方向性があるなかで、県としてはどのように文化財整備を考えるかということが非常に重要になってくる。
 - 現時点でまだ整備計画の全体像が見えていないため、どの範囲で文化財指定できるかについては、今後那覇市や県関係部局と調整のうえで決定していきたい。
- 上之御殿エリア東側石積の計画における「基本的な考え方」について、「文化財整備と同等の仕様で石積整備を行う」ことを追加していただきたい。
- 他の文化財、石積などの整備現場では石材の調達が難しいと聞く。石材の調達計画についても早めに検討いただきたい。
- 立岩には崩落の危険もあるため、柵には公園利用者の安全性の確保という機能もある。立ち入ってはいけないことが明確に伝わるよう配慮して検討すべきである。
- 立岩の立入禁止柵の支柱は、眺望広場の柵と同じく天然木でお願いしたい。プラ擬木だと、周辺景観との不調和や柵自体が歪んで見えることなどが懸念される。
- 北側階段の門扉はアルミ製となっているが、周辺の石積に配慮して、亜鉛メッキリン酸処理など、自然になじむ素材や仕上げを再検討いただきたい。
- 東側石階段付近の街路灯・監視カメラの位置について、首里城への眺望を考慮したうえで、設置場所や設備形態を検討いただきたい。
- 眺望広場の安全対策等を含めた整備計画について、今回の資料に記載がない。今後の検討としてもよいので、どこかに記載いただきたい。
- 眺望広場へのアクセスについて、バリアフリー対策として何か工夫ができないか。無理に登らせるということではないが、検討いただきたい。

2. 正門側井戸の再整備手法について

- 井戸遺構を歩道面まで下げる案となったが、取り外した遺物を別の場所で保管するのではなく、歩道面に高さを合わせて現場に残す手法も提案していた。そのような方法は文化財保護の観点からふさわしくないのか。
 - 道路管理の観点からは、遺構が湾曲していることと、歩道の通行量が多いことから、安全性に問題があると考えている。また、文化財保存の観点でも、遺構を棄損してしまう恐れがある。検討の結果、オリジナル遺構の現地での展示は行わない方向で提案している。
- 現在の井戸が出っ張っている状態も、道路の安全上問題であると思うし、その手法に比べ

れば、提案した手法ははるかに危険性が低いのではないか。最大限に尽力して、文化財を活かした整備手法を検討すべきである。

- 首里杜まちづくり協議会において地域からは道路の安全性や通行性を確保してほしいとの意向が示されている。
- 遺構は残しつつ、表面を傷つけないようにプラスチックの溶剤を溶け込ませ、上に層をつくる手法を提案したい。そうすれば遺構に傷もつかずに済む。もし不要となった際は層を剥がせばよい。最新技術のものは強度もある。
- どのような形であれ、遺構をその場に残す場合は人が通り、踏みつけてしまうことになるのは確かである。その点も踏まえて、井戸遺構の整備手法については引き続き議論いただきたい。

3. 松崎馬場跡の整備計画について

- 国学・首里聖廟石垣について、今回の計画の対象外とは思いますが意見したい。石垣の状態はよいようだが、一部、文化財的修復を行うほうがよいのではないか。主管は県立芸大かと思うが、松崎馬場の整備と歩調を合わせて、ぜひ、那覇市の指導も仰ぎながら、この機会に文化財的な修復をしてはどうか。
- 松崎馬場の植栽を整える過程では、現況の景観から変わることになるため、地域の方にもご理解いただけるよう、丁寧に説明をしていただきたい。
- 宿道は再現する方針なのか、確認したい。また、宿道の幅員について、管理車両の通行条件から幅員を決定したように見える。搬入車両の大きさも調整次第で小さくすることも可能と思う。龍淵橋側ももっと狭かったのではないかと思う。当時の幅を変えてまで、管理車両を無理に通す必要はないのではないか。
 - 宿道のルートは一部、芸大石垣の下にあると想定され、発掘調査が未完了のため、詳細がわかっていない。宿道遺構をどう保存・活用するのかという方針の決定は、発掘調査も含めて令和8年度以降も検討すべき中長期的な課題として、園路整備とは切り分けて考えていく。また、発掘調査で宿道の幅員が4m以上あったことが確認されているため、管理車両の幅から決定したとの誤解を招かないよう整理したい。
- 芸大側に設ける側溝について、景観上、見える位置であれば生け垣を設置して見えないようにするなど、景観に配慮すべきではないか。

4. 進捗及び関連事業の報告について

■中城御殿 建物エリアの検討状況について

- 中城御殿の建物の防災上の課題について、国の技術検討委員会の防災専門の委員から、首里城の火災を踏まえて検討してほしいとの意見があった。延焼を防止し、仮に火災が発生した場合でも、ほかの建物が残せるような検討をしていただきたい。
 - 国の技術検討委員会の防災専門の委員にアドバイスをいただいたうえで基本計画をとりまとめた。今後の建物設計においても防災専門家の意見を確認しながら設計を進める。

- 令和3年度検討委員会において、中城御殿の屋根のつながりに関して「景観上の留意事項として往時の屋根より突出しないこと」と意見しているが、屋根は軒先も含めた全体として考えている。そのような認識で計画を進めているとの理解でよいか。
 - 詳細を検討すべき課題として今回提示している。その点も含めて今後、検討したい。
- 室外機等について、景観上の配慮に加え、騒音対策も考慮いただきたい。上之御殿エリアに稼動音が入らないような機器の検討や、場合によっては配置換えなども含めて検討いただきたい。
- 建築計画の考え方について、「防災・防火対策の強化」の文言はあるが、避難関係の記述が見当たらないため、追加していただきたい。
- 建物に計画されている地下室と地下水の位置関係はどうなっているか。それによって空調や虫、カビの対策が必要になる場合がある。
 - 地下の水位については把握できていないが、旧博物館で収蔵庫として使用されていた場所に地下室を設ける計画をしている。参考までに、正門側の井戸遺構の水位は地表面（計画歩道面）から3m程度である。ご指摘の場所についても、おそらく、その程度ではないか。

■城郭等屋外照明設置工事について

- 地域団体の意見として、首里は那覇のまちと違って夜の月や星がきれいに見える場所であり、上部からの光源は好ましくないとのことで、照明の高さを抑えてもらっているが、資料中には上部からの照明のイメージ図があるため、再検討いただきたい。
- 照明で守礼門前の地面に唐草模様のようなものが描かれているが、これも実施するのか。風格に影響を与えると思うので必要ないかと思うが、いかがか。
 - 照明手法のひとつとして提示しており、基本的にはイベント時の使用を検討している。普段からこのような照明を実施するというわけではない。
- 照明設置後は、地域の方と照明の明るさ等の確認をお願いしたい。
- 以前説明のあった松崎馬場、龍潭の照明計画の話はどうなったのか。この事業で一体的に行うのか、どちらの業務で最終的に決定するのか。
 - 首里城公園内の夜間照明コンセプトは、今回説明した城郭等屋外照明設置工事業業で行うが、具体的な設計等については中城御殿の業務で行う。
- 夜間照明については、あまり明るくしすぎるのも問題があると思う。常時ではなくイベント時のみ特別感を持たせるために演出を工夫するなど、配慮いただければと思う。

■その他

- 「龍潭池」という表記は間違いなので「池」を削除し「龍潭」としていただきたい。

以上